

令和7年度 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の安全・安心を基盤とし、全職員の共通理解のもと、幼児に知・徳・体のバランスのとれた力を育み、楽しい幼稚園をつくる。</li> <li>・ 幼児が遊びや生活を通し、生涯にわたって主体的に生きていく力の基礎を養う。</li> <li>・ 学力や生きる力につながる、非認知的能力を育む。</li> </ul> <p>【研究テーマ】「やってみよう！」心動かし主体的に活動する子どもをめざして ～幼児理解と環境づくり～</p>
------------	---

<p><b>まなびの現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな体験活動や地域社会との積極的な関わりにより、学びの土台となる意欲が育っている子どももいれば、愛着形成に課題があり、安心して過ごせない子どもや多様な支援を必要とする子どももいる。子どもの実態に合わせてカリキュラムを常に見直し、どの子も安心できる環境づくりを園全体で進めていく。</li> <li>・個に応じた支援の工夫や、子どもの自立や自己肯定感につながる親子の関わりの啓発も含め、研究実践園としてインクルーシブ保育を推進し、子どもが主体的に活動する力を育んでいく。</li> </ul>	<p><b>こころ・からだの現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な支援を必要とする子どもの割合が増加していること、個人差が大きいことをふまえ、支援計画を作成し関係機関や早期支援のシステムを生かして、個の支援を行いながら集団づくりにつなげていく。</li> <li>・自発活動において積極的に体を動かすことで基礎体力は身につけている。しかし、手先の巧緻性や体のバランス感覚に課題の見られる子どももいるので、多様な保育活動を通し、楽しいと感じながら能力を伸ばせるように保育を行っていく。</li> </ul>
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 ( ●重点とする取組 )	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況 (年度末)						
								自己評価		学校関係者評価				
確かな学び	遊びの創造	身近な自然や人に興味をもち、意欲的に遊べるようにする。	●様々な体験活動や心が動く遊びを通して主体性を育み、確かな学びにつなげる。  子どもの実態に応じたどの子ども安心して遊べる環境づくりを行う。	保護者の80%以上が肯定的評価	保護者アンケート 保育観察  カリキュラム 保育観察	年度末	◎  ◎	子どもの実態に合わせて、これまでの経験や感覚が体験をもとに、様々な保育内容や環境構成を工夫している。一人ひとりの思いやペースに合わせた遊びや学びを大切にしながら、どの子ども安心して活動できる環境づくりを行っている。						
	保育力	教師の保育実践力の向上をめざし、個に応じた支援を行う。	個々の発達状況に合わせて養護・教育の観点を意識した支援を行い、インクルーシブ保育を進める。	研究保育を行い、園全体で成果と課題を共有する。	研究保育 保育観察	年度末	◎	今年度は教育研究全国大会の会場園として公開保育を行うにあたり、造形表現について学ぶ機会をいただき、様々な教材研究を積み重ねてきた。本園のテーマに沿った「やってみよう！」と子どもの心が動く保育を全教職員で検討・研究をした様子を多くの先生方に見ていただくことができた。一人ひとりの子どもの実態・特性に応じた合理的配慮として、保育室環境の工夫やスケジュール掲示、絵カード等を用いたコミュニケーション支援など、すべての子どもが安心して園生活が送れるように取り組んでいる。						
			3歳から5歳までの非認知的能力の育ちを共有し、小学校教育への円滑な接続につなげる。				○							
●子どもの実態に応じた細やかな見取りを共有しながら環境のあり方を研修する。			◎											
豊かな心 健やかな体	自己の発達	いろいろな人とふれあい、より良い人間関係を育む。	意図した異年齢活動を通し、お互いを知り、多様性を育む。こども園や小学校、地域の方々との直接的や間接的な交流をとおして、人と関わる力を育む。  ●個別の支援をしながら、互いを認め合える集団づくりを行う。	保護者の80%以上が肯定的評価	保護者アンケート 保育観察	年度末	◎  ◎	こども園や小学校、地域の方々との交流の場をつくり、多様な経験を積み重ねている。人と関わり合う中での育ちとして、互いに刺激を受けて相手の思いを察しようとする姿がみられる。日常的に教職員全員が連携して子どもに関わることができる体制が整っており、細やかに子どもの姿を見取ったり、支援方法を探ったりしながら、一人ひとりが安心して過ごせる環境や集団づくりを行っている。						
			体づくり				健康・安全に対する意欲を高め、健康な体をつくる。	毎月の避難訓練や安全指導を通して、「自分の命は自分で守る」意識を育てる。  基本的生活習慣の定着に向けて個に応じた支援を行う。  ●遊びを通して体を動かす楽しさを感じさせ、多様な動きができるような体づくりを行う。	保護者の80%以上が肯定的評価	保護者アンケート 実態把握	年度末	◎  ○  ◎	子どもの実態を踏まえ、保健安全指導を繰り返し行っている。また、掲示物や家庭へのお便りでも啓発を行い、意識向上につながっている。個に寄り添いながら丁寧な指導を行うとともに、家庭と連携して取り組み、生活習慣の獲得につながっている。季節を感じる遊びや積極的に体を動かす遊びを工夫して取り入れてきた。異年齢での関わりや3学年での自発活動を行うことで、意欲が高まっている。	
	●子育て支援の一環として、預かり保育の活用を促す。未就園児招待や園庭開放の実施やHP等での情報発信を行う。  教育相談を実施するとともに、関係諸機関や地域人材と連携し、親がともに育つ場を設定する。	保護者の80%以上が肯定的評価		保護者アンケート 実施状況	年度末	◎  ○		預かり保育では降園時に子どもの育ちを保護者と共有し、日々の子育て支援を行っている。未就園児招待では、個別相談に寄り添い、保護者同士がつながったり情報共有できる場となり、安心につながる子育て支援を行っている。また、園だよりやHP等で情報発信できている。関係諸機関とも連携して情報提供や共有を行い、保護者の安心感につなげている。						

園長より	学校関係者評価者から
------	------------